木曜
ASHUREY CLASS

幕 屋 מִשְׁכָּן

No.23 2023. 12.07

「幕屋」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】
①ヨハネの福音書5章39節

あなたがたは、聖書の中に
永遠のいのちがあると思って、
聖書を調べています。
その聖書は、わたしについて
証ししているものです。

【新改訳2017】
②出エジプト記25章8節

彼らにわたしのための聖所を
造らせよ。そうすれば、
わたしは彼らのただ中に住む。

「幕屋」「ミシュカーン」מִשְׁכָּן

「聖所」「ミクダーシュ」מִקְדָּשׁ

「荒野」「ミドゥバール」מִדְבָּר

「幕屋」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】
③ヨハネの福音書1章14節
ことばは人となって、
私たちの間に住まわれた。
私たちはこの方の栄光を見た。

【回復訳】
言(ことば)は肉体と成って、
わたしたちの間に幕屋を張られた。
わたしたちは彼の栄光を見た。

【新改訳2017】
④コロサイ人への手紙2章3節

(神の奥義である)キリストの
うちに、知恵と知識の宝が
すべて隠されています。

※私たちが語るキリストの奥義は、
「塩味の効いた」魅力あることば
となります(コロサイ4:6)。

「幕屋」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】

⑤ヨハネの福音書15章4～5節

4 わたしにとどまりなさい。
わたしもあなたがたの中にとどまります。
枝がぶどうの木にとどまっていなければ、
自分では実を結ぶことができないのと同じように、
あなたがたもわたしにとどまっていなければ、
実を結ぶことはできません。

5 ・・わたしを離れては、あなたがたは
何もすることができないのです。

●「とどまる」の最良のヘブル語は「結び合う」を意味する「ダーヴァク」(דָּבַק)であり、そのためには、互いが霊によって「導かれる」ことを意味する「ナーハー」(נָחָה)が不可欠です(創2:24、イザ11:2参照)。また「とどまる、休息する」を意味する「ヌーアッハ」(נוּחַ)の名詞「メヌーハー」(מְנוּחָה)も、「永遠の身の置き所・憩い」を意味する関連語と言えます。

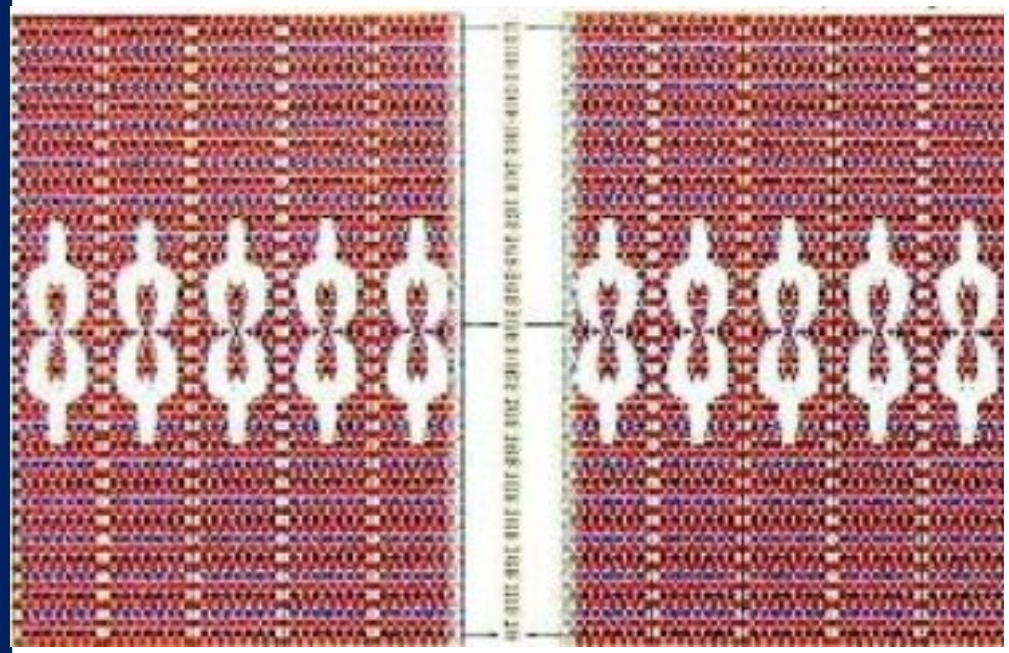
「幕屋」を学ぶ上で大切な視点

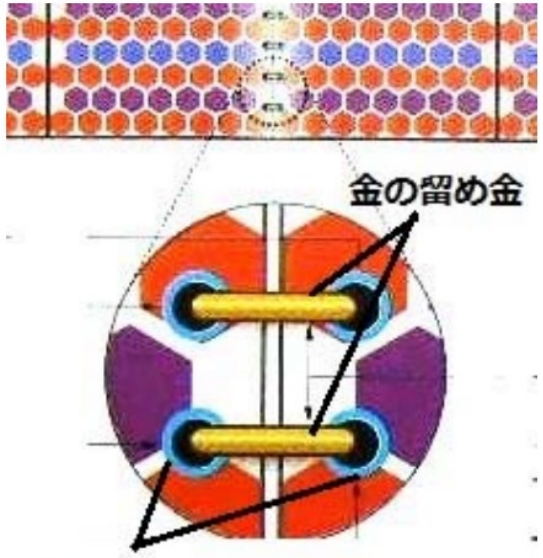
●「幕屋」(「ミシュカーン」מִשְׁכָּן)は「天にあるものの写しと影」(ヘブル8:5)です。それは神ご自身によって備えられたもので、深淵な神の知恵が隠されています。つまり、幕屋のうちに、神の完全なご計画のヴィジョンが「影」として写し出されているのです。それゆえ、幕屋のすべての部分(材料、色、寸法、位置、比率、用具の一つひとつ)、礼拝のすべての規定(火、ささげ物、祭司とその装束などの一つひとつ)が特別な意味をもっています。したがって、その意味を知ろうとすることは「キリストを知る」ことにつながるのです。以下のみことばを心に留めましょう。主を尋ね求める者にこそ、主は答えられるからです。

【新改訳2017】エレミヤ書 33章3節
『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、
あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』

1. 前回までの復習

●以前、ミシュカーン(聖なる幕)の奥義について学びました。それは「二つのものによって一つになる」という奥義です。「立て板」の「はめ込みのほぞ」についても、互いにつなぎ合わせるようにすることで、幕屋の枠組みがしっかりと組み合わされることを学びました。





青いひもの輪(出26:4～5)

2.「百個の銀の台座」の奥義 ①

●今回は、板と柱を支える
「百個の銀の台座」の奥義です。

2.「百個の銀の台座」の奥義 ②

【新改訳2017】出エジプト記38章25～28節

25 登録された会衆による銀は、
聖所のシェケルで百タラント千七百七十五シェケルであった。
26 二十歳以上で登録された者が全部で六十万三千五百五十人だったので、
これは一人当たり一ベカ、聖所のシェケルで半シェケルである。
27 聖所の台座と垂れ幕の台座を鋳造するのに用いた銀は百タラントで、
百個の台座に百タラント用いた。一タラントで一個の台座である。
28 また、千七百七十五シェケルで柱の鉤を作り、柱の頭にかぶせ、
頭つなぎで柱をつないだ。

●ここで問題です。ここには三つの単位(タラントとシェケルとベカ)が登場します。ベカを除外して、一タラントは何シェケルかを考えてください。(※漢数字をアラビア数字に置き換えると便利です)。

2.「百個の銀の台座」の奥義 ③

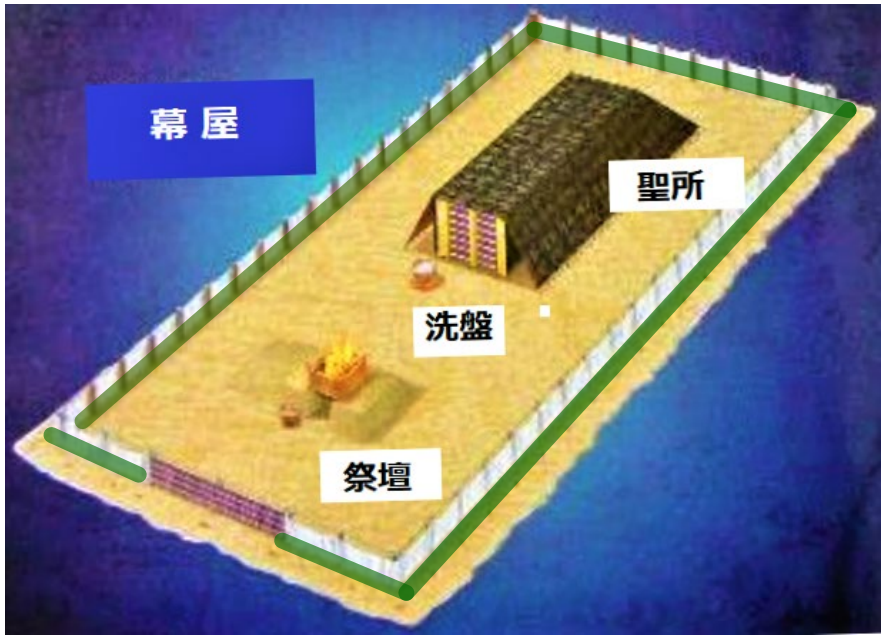
●幕屋で使われた銀の総計は、聖所のシェケルで100タラント1,775シェケル。これは、二十歳以上で登録された者、全部で60万3,550人分の「贖い金」に相当します。一人当たりの「贖い金」が半シェケルですから、603,550×0.5 =301,775シェケルとも表せます。

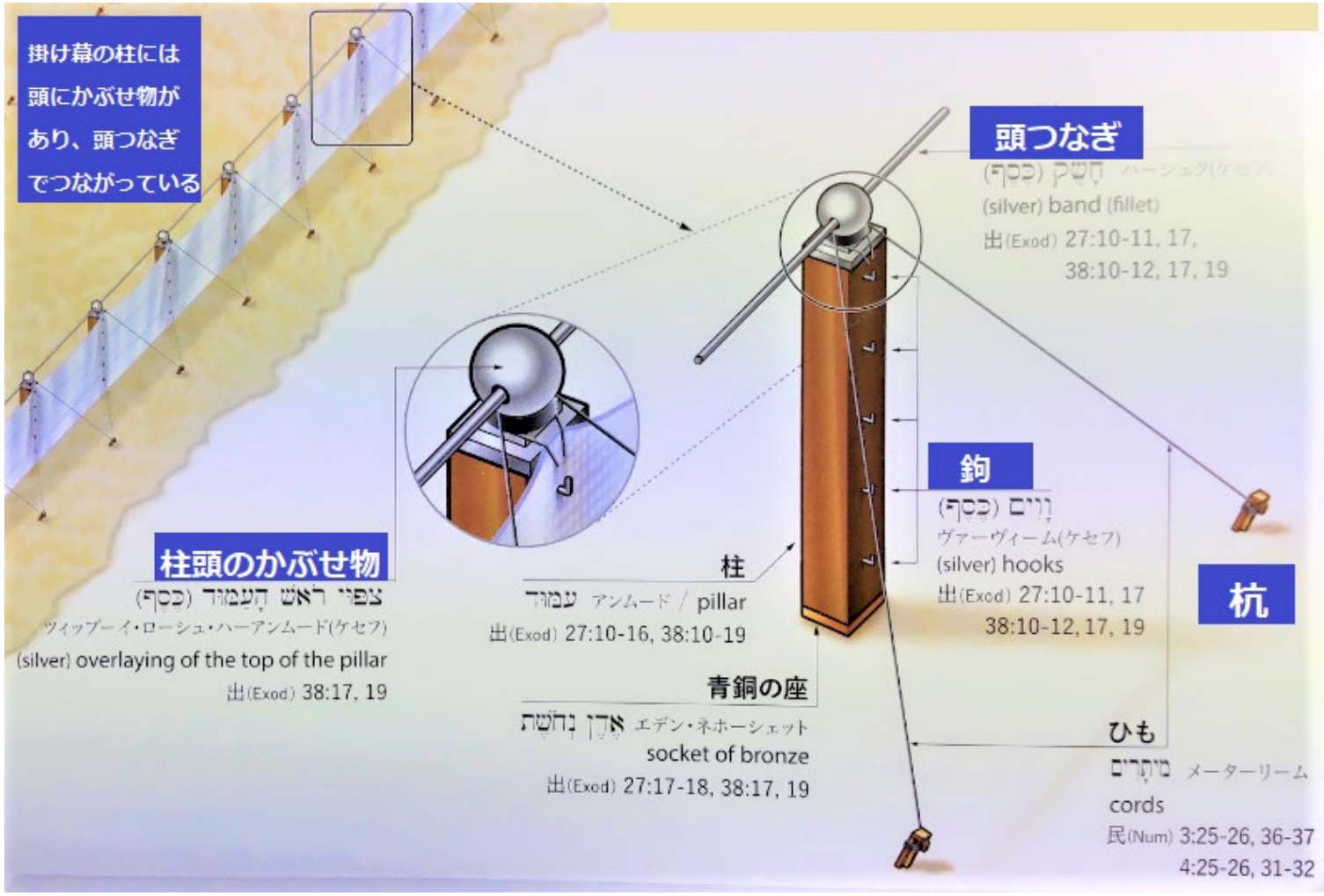
●台座は一個一タラントとあります。板の台座96個と、仕切りの幕を支える柱の台座4個で、合計100個の台座となり、合計銀100タラントになります。

2.「百個の銀の台座」の奥義 ④

●残りの銀1,775シェケルは、幕屋の庭のアカシヤ材の柱(60本)で使われています。イエシュアの人性を表す柱です。

(1)「柱の鉤(かぎ)」
(2)「柱頭のかぶせ物」
(3)「頭つなぎ」





2.「百個の銀の台座」の奥義 ⑤

●全体のうち、「柱の鉤」「柱頭のかぶせ物」「頭つなぎ」に使われている分の銀1,775シェケルを除くと、台座の銀100タラントとなり、100タラントは300,000シェケルと表せることから、銀1タラントは3,000シェケルとなります。これが答えです。

●そこで板の部分の台座96個分をシェケルにすると、

3,000×96=288,000となり、

この数はなんと「144,000」と「144,000」を合わせた数となります。

144,000=12×12×1,000

●さらに、垂れ幕の柱の部分の台座4個分をシェケルにすると、3,000×4=12,000(12×1,000)となります。すべて12の倍数です。

●これらの数字がすべて贖いを意味していることは確かです。しかし、これらの数字に隠されている奥義とは一体何なのでしょうか。

2.「百個の銀の台座」の奥義 ⑥

●「144,000」という数はヨハネの黙示録にしかありません。しかも、それは7章と14章のみです。この数はいずれも字義通りの数ではなく、象徴的な数です。この数は12×12×1000からなっています。「12」という数の累乗の千倍です。「12」という数は神のこだわりの数字です。なぜならそこに神の秘められたメッセージが隠されているからです。

●12+12=24、12×12=144は、神のご計画における究極的完全数、永遠に固定されるべき象徴的な数と言えます。さらにヘブル語の数の位の最高は「アーレフ」、つまり「千」です。12×12=144, 144×1000=144,000となります。数だけでなく、新しいエルサレムの立方体の縦×横×高さがそれぞれ12,000(スタディオン)であるのも、まさに「至高の完璧な数」と言えます。この場合の単位は重要ではありません。数値が重要です。ヨハネの黙示録21～22章には、「12」という数が実に数多く見られます(21:12, 14, 16, 20, 21, 22:2)。

3. ヨハネの黙示録の「144,000」①

【新改訳2017】ヨハネの黙示録7章1～4節

1 その後、私は四人の御使いを見た。彼らは地の四隅に立ち、地の四方の風を
しっかりと押さえて、地にも海にもどんな木にも吹きつけないようにしていた。
2 また私は、もう一人の御使いが、日の昇る方から、生ける神の印を持って
上って来るのを見た。彼は、地にも海にも害を加えることを許された四人の
御使いたちに、大声で叫んだ。
3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも
害を加えてはいけない。」
4 私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、
イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

●ここにある「144,000」は明らかにイスラエルに対する数です。
ここに書かれてあることを説明したいと思います。

3. ヨハネの黙示録の「144,000」②

【新改訳2017】ヨハネの黙示録7章1～4節

1 その後、私は四人の御使いを見た。彼らは地の四隅に立ち、地の四方の風を
しっかりと押さえて、地にも海にもどんな木にも吹きつけないようにしていた。

※「風」(「アネモス」) は苦難や患難、神のさばきを意味しています(マタイ7:25, 27)。
※「地」はイスラエル、「海」はイスラエルに敵対する諸国、「木」は人を表します。
それらに風が吹きつけないようにしていたということは、その期間に多くの諸国の民に御国の福音を宣べ伝え、多くの異邦人を刈り取るためです(マタイ24:14)。この「多くの異邦人」(「ゴーイム」גּוֹיִם)は「男の子」と表されています(黙12:5,13)。

2 また私は、もう一人の御使いが、日の昇る方から、生ける神の印を持って
上って来るのを見た。彼は、地にも海にも害を加えることを許された
四人の御使いたちに、大声で叫んだ。

※「生ける神の印」とは、「イスラエルの残りの者」を反キリストによる未曾有の大患難から守るための「印」です。彼らは黙示録12章で「一人の女」として表されます。

3. ヨハネの黙示録の「144,000」③

3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも
害を加えてはいけない。」

※「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで」とは、14万4千人の「イスラエルの残りの者」が悔い改め、イエシュアこそメシアであるという信仰を持ち、神に守られてその宣教の働きがなされるまでという意味です。

4 私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、
イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

※世界中に離散しているユダヤ人に神の印が押されることで、彼らは「御国の福音」を宣べ伝えると考えられます。つまりマタイ24章14節と28章19節のみことばが成就するのです。

※ここでの「十四万四千人」は「神のしもべたち」、つまり「イスラエルの子らのあらゆる部族の者」であり、神の守りのしるしである印が額に押された者たちです。彼らは「イスラエルの残りの者」であり、大患難の前に神の印を押された者たちで、「御国の福音」を宣べ伝えることによって、「すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆」が救われることになるのです。エックレーシアの重要な務めは、この神のご計画を知らせることです。

3. ヨハネの黙示録の「144,000」④

●もう一つの「144,000」が14章に登場します。それは7章と同じくイスラエルを指しているのでしょうか。それとは異なる団体を表しているのでしょうか。
14章の「144,000」はすでに携挙されている「エックレーシア」のことです。

【新改訳2017】ヨハネの黙示録14章1～5節
1 また私は見た。すると見よ、子羊がシオンの山の上に立っていた。また、子羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。
2 また、私は天からの声を聞いた。それは大水のとどろきのようであり、激しい雷鳴のようでもあった。しかも、私が聞いたその声は、竪琴を弾く人たちが竪琴に合わせて歌う声のようであった。
3 彼らは御座の前と、四つの生き物および長老たちの前で、新しい歌を歌った。しかし、地上から贖われた十四万四千人のほかは、この歌を学ぶことができなかった。
4 この人たちは、女(=大バビロン)に触れて汚れたことがない者たちで、童貞である。
彼らは、子羊が行く所、どこにでもついて行く。
彼らは、神と子羊に献げられる初穂として、人々の中から贖い出されたのである。
5 彼らの口には偽りが見出されなかった。彼らは傷のない者たちである。

3. ヨハネの黙示録の「144,000」⑤

1 また私は見た。すると見よ、子羊がシオンの山の上に立っていた。
　また、子羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には子羊の名と、
　子羊の父の名が記されていた。

※ここでの「シオンの山」とは、地上にあるエルサレムではなく、天のエルサレムです。なぜなら、「彼らは御座の前と、四つの生き物および長老たちの前で、新しい歌を歌った」とあるからです。ヘブル人への手紙12章22～23節にはこうあります。

22 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、
　　生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、
23 天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、
　　完全な者とされた義人たちの霊、

※ここでは来るべき御国について語っています。ヨハネが見ているのもこのシオンの山、すなわち天にあるエルサレムです。キリストの血潮によって「地上から贖われた」(3節)者たち、「神と子羊に献げられる初穂として、人々の中から贖い出された」(4節)者たちです。「初穂」ということばがあるので、復活のからだ(御霊のからだ)が与えられて携挙された者たちです。7章の14万4千人の「イスラエルの残りの者」には与えられていません。

3. ヨハネの黙示録の「144,000」⑥

●ヨハネの黙示録14章1～5節を要約すると、

(1)「14万4千人」には「その額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた」とあります。

(2)「彼らは、子羊が行く所、どこにでもついて行く」とあります。
　子羊が地上再臨される時にも、一緒について来るはずです。

(3)「彼らは御座の前と、四つの生き物および長老たちの前で、新しい歌を歌った」ともあり、
「新しい歌」とはキリストによって贖われた者たちだけが歌うことができます。

(4)「この人たちは、女に触れて汚れたことがない者たちで、童貞である」とあります。

※ここでの「女」は「大バビロン」であり、この世のサタンのシステムによって霊的姦淫をもたらすものです。このような汚れたシステムから自らを守り、花婿のために純潔を保ったことを表現したのが「童貞」という言葉と考えられます。また「彼らの口には偽りが見出されなかった。彼らは傷のない者たちである」とあるのも、子羊の義の衣を着せられた傷のない者たちだからです。

※黙示録2章20節に、教会を汚した「イゼベルの女」について言及されています。この「女」は「預言者だと自称し、神のしもべたちを教えて惑わし、淫らなことを行わせ、偶像に献げた物を食べさせている」とあり、「童貞」とはこの「女」に対応した表現と言えます。

●このように(1)～(4)は、すべて「エックレーシア(教会)」を指しています。

3. ヨハネの黙示録の「144,000」⑦

●ところで、なぜ「教会」という名前が出てきていないのでしょうか。その理由は、イスラエルの14万4千人が伝えた御国の福音によって救われる「すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆」(7:9)と区別するためであったと考えられます。「大勢の群衆」は一時は「女」(大バビロン)の教えに洗脳されていました。しかし、「イスラエルの残りの者」14万4千人によって伝えられた御国の福音を聞いて、信仰を与えられた者たちです。彼らは「大きな患難(大患難)を経てきた者たち」、殉教を余儀なくされた異邦人なのです。そしてその後、天の「神の御座の前にあって、昼も夜もその神殿で神に仕えている」者たちです。

●至聖所と聖所の仕切りの幕を支えている柱の4個の台座の12,000シェケルは、「殉教を余儀なくされた異邦人」としてカウントできます。それ以外の者たち、すなわち「イェシュアを人として生み出した旧約の聖徒たち」は、幕屋の庭の柱に使われている残りの銀(1,775シェケル)にカウントできます。「最も小さい者たち(=ユダヤ人)を助けた人たち」(マタイ25章の「羊」)は贖われてはいないので、この銀の中には含まれていません。しかし、彼らには「世界の基が据えられたときから御国を受け継ぐ」ことが備えられています（25:34）。おそらく、御使いによる「永遠の福音」(黙示14:6～7)によって促されるのかも知れません。

3. ヨハネの黙示録の「144,000」⑧

●このように、7章と14章にある二種類の「14万4千人」の根拠は、幕屋の「まっすぐに立てる板」の96個の台座に啓示されています。そしてそれはイエシュアの血潮によって贖われた「イスラエルの残りの者」と「エックレーシア」です。「聖なる幕」(מִשְׁכָּן)でも然りです。

A【新改訳2017】ヨハネの黙示録7章4節
私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、
イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

B【新改訳2017】ヨハネの黙示録14章1節
また私は見た。すると見よ、子羊がシオンの山の上に立っていた。また、子羊とともに
十四万四千人の人たちがいて、その額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。

●7章の「イスラエルの残りの者」14万4千人によって救われる「すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆」は、仕切りの幕の柱の4個の台座に隠されています。つまりメシア王国における神によって贖われたすべての人々が、幕屋の「百個の銀の台座」の象徴的な数値(144,000、144,000、12,000)の中に隠されているということです。

今回のまとめ

【新改訳2017】イザヤ書34章16節
【主】の書物を調べて読め。
これらのもののうち、どれも失われていない。
それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。
それは、主の口がこれを命じ、
主の御霊がこれらを集めたからである。

●このみことばが意味することを、今回、多少なりとも味わえたのではないかと思います。聖書をつまびらかに読むことで、ある事柄が伴侶のように結び合ってきます。御霊の啓示によって、ますます神のご計画の全体を知る者となり、御国の福音を告げ知らせる者となりたいものです。